

看護基礎教育課程用の教科書におけるスピリチュアリティに関する記載の現状

小藪 智子¹, 白岩千恵子², 竹田 恵子²

The Present Situations of the Description of Spirituality in Fundamental Nursing Textbooks

Tomoko KOYABU¹, Chieko SHIRAIWA² and Keiko TAKEDA²

キーワード：スピリチュアリティ, 教科書, 看護基礎教育

概 要

看護師が対象者のスピリチュアルな側面も視野に入れたケアを実践するには、まずは看護基礎教育でスピリチュアリティについて知ることが第一歩であると考え、そこで複数の和訳を持つスピリチュアリティが教科書の索引にどのような言葉で載っているのか、どの領域の教科書に記載があるのかを明らかにすることを目的に文献研究を行った。5社の看護基礎教育課程用の教科書の最新版223冊を対象にスピリチュアリティの和訳として検討された言葉が索引にあるか、また索引の言葉がスピリチュアリティに関する記載を示しているかを確認した結果、29冊の教科書に70箇所の記載があった。スピリチュアリティの表記は「スピリチュアリティ (スピリチュアル)」というカタカナ表記が多く、「霊性 (的)」の和訳も使用されていた。またスピリチュアリティに関する記載のある教科書の領域は主に「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「終末期看護・緩和ケア」であった。

1. 緒 言

1998年、世界保健機関（以下 WHO とする）執行委員会、WHO 憲章の前文「健康の定義」にスピリチュアル概念を追加する議論をきっかけに、近年スピリチュアルケアへの関心が高まり、研究が進みつつある。

しかし、スピリチュアルケアの重要性が述べられているものの、我が国ではほとんどの病院や施設では実践には至っていないことが指摘されている¹⁾。また、志田ら²⁾はスピリチュアルケアに関する文献研究から、スピリチュアルケアの用語の定義が定まっておらず、看護師間の共通理解ができていない現状にあること、何がケアになるか明らかでなく実践と結びついていないことを指摘している。このような捉えどころのないスピリチュアリティについて、看護基礎教育の基

本となる教科書では、どのように記載されているのだろうか。著者らはスピリチュアリティの教授内容を検討するにあたり、教科書における記述内容を把握する必要があると考えた。

しかし、スピリチュアリティは複数の和訳が検討された経緯があり³⁾、看護基礎教育の教科書においてどのような表記がされているのか、明らかではない。また、スピリチュアリティを取り扱う領域について考えると、緩和医療の中でターミナル期のケアを中心にスピリチュアルケアの必要性が表出されているが、スピリチュアルケアの必要性は死にゆく人のみではないことが指摘されている¹⁾。それでは看護基礎教育の教科書では、どのような表記で、どの領域においてスピリチュアリティに関する記載があるのだろうか。先行研究を検索したが教科書を対象とした研究は見当たらなかった。

そこで未だに定義の定まっていないスピリチュアリティに関する教科書における記述内容を把握し、教授内容を検討する前段階として、複数の和訳を持つスピリチュアリティがどのように表記されているのか、また、どの領域の教科書に記載があるのか、傾向を明ら

(平成23年10月19日受理)

¹川崎医療短期大学 看護科

²川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科

¹Department of Nursing, Kawasaki College of Allied Health Professions

²Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare Kawasaki University of Medical Welfare

かにしたいと考えた。

本研究の目的は、シリーズで出版されている看護基礎教育課程用の教科書を対象に、スピリチュアリティ、あるいはスピリチュアリティの和訳として検討された言葉が索引にあるかどうか、またどの領域の教科書の索引にあるかを明らかにし、現状を知る一資料とすることである。

2. 用語の定義と和訳

1) スピリチュアリティ

WHOは霊的 (spiritual) を、人間として生きることに関連した経験的一側面であり身体感覚的な現象を超越して得た体験を表す言葉である、霊的な側面には宗教的因子が含まれているが「霊的」と「宗教的」とは同じ意味ではない⁴⁾、と定義している。本研究におけるスピリチュアリティの捉え方は、このWHOの定義に準拠した。

2) スピリチュアリティの和訳として検討された言葉

次にスピリチュアリティの和訳について、日本のホスピスケアの開拓者のひとりである柏木⁵⁾は、「霊的ケア」、「魂のケア」、「実存的ケア」、「宗教的ケア」など検討されたが、スピリチュアルという言葉が持っている深さと広がりを超えて日本語は存在せず、今ではあえて翻訳しないでそのまま用いようとする傾向にある、と述べている。また安藤⁶⁾はスピリチュアリティという語が「宗教」や「宗教性」という語とはかなり区別された現在のよう形で用いられるようになるのは、おおむね1980年代以降で、学術文化および一部のサブカル的読書文化を通じて日本に入り、「宗教性」「精神性」「霊性」などと訳された、と述べている。

そこで本研究では、「霊性 (的)」「たましい性 (的)」「実存性 (的)」「宗教性 (的)」「精神性」を、暫定的にスピリチュアリティの和訳として検討された言葉とした。

3. 研究方法

1) 調査対象

5社から出版された最新版 (2010年4月現在) の看護基礎教育課程用の教科書223冊。出版社の選定は、看護基礎教育課程用の教科書を対象とした先行研究⁷⁻¹¹⁾を参考とした。シリーズとして出版されている教科書で、大手書店に看護基礎教育機関で主に使用されていることを確認し、5つの出版社 (A社, B社, C社, D社, E社) とした。

2) 調査方法

スピリチュアリティの和訳として検討された言葉とスピリチュアリティの6語をキーワードとし、「霊」「たましい」「実存」「宗教」「スピリ」から始まる言葉が索引にあるかを確認した。ただし「精神」については精神的ケアとスピリチュアルケアは、全人的ケアの中で区別されているため、スピリチュアリティの和訳としてある「精神性」のみを対象とした。出版社別に、6語のキーワードが索引にある教科書数を集計した。

次に、索引の語がスピリチュアリティに関する記載を示しているかどうか、本文の内容を確認した。スピリチュアリティの記載を示す索引は、6つの内どのキーワードであったか、出版社別に集計した。また、どのような言葉で索引に載っていたのか、索引にあった言葉を集計した。

最後に、どの領域の教科書にスピリチュアリティの記載を示す索引があるのか、また、何箇所記載があるのかを調べるために、先の調査でスピリチュアリティの記載を示す索引のあった教科書を領域に分類し、記載箇所を集計した。記載箇所は索引で調べた結果を基に1つの言葉を1記載箇所とすることを基本としたが、同一箇所に複数索引の言葉があり、同じ内容を示している場合は、1記載箇所と見なして集計した。領域の分類は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の平成21年度に施行された第3次カリキュラムの枠組みを基準とした。ただし、「終末期ケア」「緩和ケア」の教科書は、スピリチュアリティに関する記載箇所が多いことが予測され、他と区別して集計するために統合分野の中に「終末期看護・緩和ケア」とおいた。

すべての作業は研究者で協議を重ね、信頼性を高めた。

3) 調査期間

2010年4月～8月。

4. 結果

1) スピリチュアリティの和訳として検討された言葉とスピリチュアリティに関する記載の有無

対象となった教科書は223冊であり、2007年～2010年に出版あるいは改訂がなされた教科書が149冊 (66.8%)、2003年～2006年が57冊 (25.6%)、2003年以前が17冊 (7.6%) であった。

「霊」「たましい」「実存」「宗教」「スピリ」から始まる言葉と、「精神性」が索引にあった教科

表1 出版社別の索引にキーワードがあった教科書数

	A社 n=65	B社 n=59	C社 n=37	D社 n=15	E社 n=47	合計 n=223
霊一	5	1		1	4	11
たましい一	1					1
実存一	3		1		2	6
宗教一	7	5			3	15
精神性						0
スピリー	4	4	4	4	11	27

単位：冊

表2 出版社別、スピリチュアリティの記載を示す索引のあった教科書数

	A社 n=65	B社 n=59	C社 n=37	D社 n=15	E社 n=47	合計 n=223
霊一	3	1		1	4	9
たましい一						0
実存一						0
宗教一						0
精神性						0
スピリー	4	4	4	4	11	27

単位：冊

表3 索引にあるスピリチュアリティに関する記載を示す言葉

スピリー (79)	スピリチュアリティ(10)
	スピリチュアル(24)
	スピリット(2)
	スピリチュアルな健康(2)
	スピリチュアルニーズ(1)
	スピリチュアルな介入(2)
	スピリチュアルケア(7)
	スピリチュアルペイン(23)
	スピリチュアルな苦痛(3)
	スピリチュアルな苦悩(1)
	スピリチュアルペインの評価(1)
	スピリチュアルペインの表現(1)
	スピリチュアル・カンファレンスサマリーシート(2)
霊一 (21)	霊(1) 霊性(3) 霊的(2)
	霊的側面(1) 霊的存在(3)
	霊的苦痛(6) 霊的苦痛の緩和(1)
	霊的苦痛へのケア(1)
	霊的な痛み(2) 霊的情報(1)

() は各言葉が示した項の数

書数を表1に示す。またその索引の語が、本文中でスピリチュアリティに関する記載を示していた教科書数を表2に示す。「霊一」は11冊の教科書の索引にあったが、そのうちスピリチュアリティに関する記載を示す索引のあった教科書は9冊であった。「たましい一」、「実存一」、「宗教一」も索引にあったが、スピリチュアリティに関する記載を示す索引のあった教科書は皆無であった。「精神性」は索引になかった。「スピリー」は27冊の教科書の索引にあり、すべてスピリチュアリティに関する記載内容を示した索引であった。

すべての出版社でスピリチュアリティに関する記載を示す索引がありA社、B社、D社、E社は、「霊一」、「スピリー」どちらの言葉でもスピリチュアリティに関する記載を示す索引があった。

2) 索引にあるスピリチュアリティに関する記載を示す言葉

スピリチュアリティに関する記載が、どのような言葉で索引にあったかを表3に示す。「スピリー」から始まる言葉は13種類79、「霊一」から始まる言葉は10種類21の言葉が索引にあった。その中でもスピリチュアルが24、スピリチュアルペインが23と多かった。

3) スピリチュアリティに関する記載を示す索引のある教科書の領域とその索引が示した記載箇所数

スピリチュアリティに関する記載を示す索引のある教科書数とその索引が示した記載箇所数（以下、記載箇所数とする）を、領域別に表4に示す。領域のうち「成人看護学」はすべての出版社でスピリチュアリティに関する記載を示す索引があった。逆に「科学的思考の基盤」「人体の構造と機能」「小児看護学」「母性看護学」「在宅看護論」はすべての出版社でスピリチュアリティに関する記載を示す索引のある教科書はなかった。「成人看護学」では7冊13箇所、「老年看護学」では4冊17箇所、「終末期看護・緩和ケア」では3冊21箇所にスピリチュアリティに関する記載があった。出版社ではE社が最も多く、9領域12冊の教科書で、スピリチュアリティに関する記載が40箇所あった。

5. 考 察

1) スピリチュアリティの和訳として検討された言葉について

スピリチュアリティについて様々な和訳が検討されたが、看護基礎教育における教科書では「スピリチュアリティ（スピリチュアル）」というカタカナ表記か、「霊性（的）」の和訳かどちらかであり、複数あった和訳は「霊性（的）」に統合されてきたといえる。スピリチュアリティについて議論する際に基準となる WHO

表4 出版社別、領域ごとのスピリチュアリティに関する記載のある教科書数と掲載箇所数

分野	領域	A社	B社	C社	D社	E社	合計
基礎	科学的思考の基盤			※	※		
	人間と生活、社会の理解	1 / 1		※	※	5 / 2	6 / 3
専門基礎	人体の構造と機能						
	疾病の成り立ちと回復の促進					2 / 1	2 / 1
	健康支援と社会保障制度			1 / 1	※	2 / 2	3 / 3
専門Ⅰ	基礎看護学	1 / 1	1 / 1		1 / 1	1 / 1	4 / 4
	成人看護学	4 / 1	1 / 1	2 / 2	4 / 2	2 / 1	13 / 7
	老年看護学	1 / 1			2 / 1	14 / 2	17 / 4
専門Ⅱ	小児看護学					※	
	母性看護学						
	精神看護学			1 / 1		1 / 1	2 / 2
	在宅看護論						
統合	終末期看護・緩和ケア	5 / 1	4 / 1	※	※	12 / 1	21 / 3
	看護の統合と実践		1 / 1		※	1 / 1	2 / 2
合計		12 / 5	7 / 4	4 / 4	7 / 4	40 / 12	70 / 29

スピリチュアリティに関する記載箇所数/スピリチュアリティに関する記載のある教科書数(冊)
※は出版のない領域

専門委員会の報告書「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア」⁴⁾の中でspiritualが「霊的な」と訳されていることと、多くの病院で採用され、看護学実習でも使用するNANDAの看護診断¹²⁾において「Spiritual Distress」が「霊的苦悩」と訳されていることが「霊性(的)」の和訳が普及した要因であると考えられる。

2) 索引にあるスピリチュアリティに関する記載を示す言葉

「霊一」の索引にあった言葉が示した項の数よりも「スピリー」の索引にあった言葉が示した項の数の方が多かった。このことから「スピリチュアリティ(スピリチュアル)」のカタカナ表記の方が一般的であると考えられる。一方、索引にあった言葉を見ると「一ケア」「一介入」「一緩和」や「一苦痛」「一苦悩」「一痛み」「一ペイン」など類似した言葉が並び、共通した言葉があるとは言い難い。

3) スピリチュアリティに関する記載を示す索引のある教科書の領域と記載箇所数

主に「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「終末期看護・緩和ケア」の領域でスピリチュアリティに関する記載を示す索引があり、特に「成人看護学」「老年看護学」「終末期看護・緩和ケア」ではその記載箇所数も多かった。「終末期看護・緩和ケア」では教科書数に対して記載箇所が多く、三澤¹⁾が指摘するように、

終末期の患者を対象にスピリチュアリティが記載されていることが推測される。また、看護師国家試験出題基準¹³⁾では、「老年看護学」の小項目に「高齢者のスピリチュアリティ」が示されているため、「老年看護学」において記載が多いとも考えられる。

専門分野Ⅱの中でも「小児看護学」「母性看護学」の教科書にはスピリチュアリティに関する記載を示す索引が全くなかったが、これらの領域にもスピリチュアリティは深くかかわる。「母性看護学」は生命の誕生に関わる領域であり、高度な医療技術の進歩に伴う生命倫理の問題では、スピリチュアリティの視点が欠かせないであろう。また「小児看護学」ではその発達段階に応じたスピリチュアリティの理解が必要であり、他の領域の教科書では代用できない。今後これらの領域におけるスピリチュアリティについて、教科書で主な事項として索引に載ることが期待される。

著者ら^{14,15)}の調査では、スピリチュアリティという言葉を知っている看護師は63.5%であり、スピリチュアルケアを実践している看護師は26.4%であった。また大久保ら¹⁶⁾の調査では、スピリチュアリティという言葉を知っているあるいは考える体験をしている看護師のうち、「看護基礎教育」で知ったと回答した看護職の割合は大学卒業者で60.0%、短期大学卒業者は22.9%、3年制専門学校卒業者では10.4%であり、看

護職のスピリチュアリティの認識を高めるには、看護基礎教育の充実や臨床体験と関連させた卒後教育が課題であると指摘している。つまり看護師が対象者のスピリチュアルな側面も視野に入れたケアを実践するには、まずは看護基礎教育において、学生がスピリチュアリティを知り、その内容を理解することが第一歩と言える。その意味で、教科書におけるスピリチュアリティに関する記述は重要であると考えられる。

4) 本研究の限界

今回の研究では、索引を手掛かりに記載の有無を調査したが、教科書によっては索引にない記載があった可能性がある。また主な事項として索引に載せる基準は出版社により異なることが考えられる。

スピリチュアリティの和訳として検討された言葉とスピリチュアリティの6語を暫定的にキーワードとしたが、6語以外の言葉でスピリチュアリティに関する記載があった可能性がある。

6. 結 論

今回暫定的に設定したキーワードについては、現在、看護基礎教育で使用されている教科書における、スピリチュアリティの表記は、「スピリチュアリティ(スピリチュアル)」というカタカナ表記か、「霊性(的)」の和訳かどちらかであり、「スピリチュアリティ(スピリチュアル)」のカタカナ表記の方が多かった。またスピリチュアリティに関する記載のある教科書の領域は、主に「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「終末期看護・緩和ケア」の領域で「小児看護学」「母性看護学」の教科書にはスピリチュアリティに関する記載を示す索引が全くなかった。今後は教科書におけるスピリチュアリティに関する記載内容を明らかにすることが課題である。

7. 文 献

- 1) 三澤久恵：看護におけるスピリチュアリティ概念の検討，共立女子短期大学看護学科紀要3：57-63，2008.
- 2) 志田久美子，渡辺岸子：日本の看護におけるスピリチュアルケアと看護師の死生観についての文献研究，新潟大学医学部保健学科紀要8(2)：95-107，2006.
- 3) 稲葉 裕：スピリチュアルの邦訳についての考察，ターミナルケア10(2)：94-96，2000.
- 4) 世界保健機関編，武田文和訳：がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア，東京：金原出版，pp. 48-49，1993.
- 5) 柏木哲夫：終末期医療をめぐるさまざまな言葉，総合臨床56(9)：2744-2748，2007.
- 6) 安藤泰至：死生学年報第4巻スピリチュアルをめぐって「スピリチュアリティ概念の再考」東洋英和女学院大学死生学研究編，東京：リトン，pp. 5-23，2008.
- 7) 篠田かおる，白鳥さつき，春田佳代，石河真紀，山幡朗子，鈴木初子：基礎看護技術における「滅菌物の取り扱い」と「手洗い」の教科書比較による内容の検討，愛知医科大学看護学部紀要4：37-47，2005.
- 8) 三徳和子，忠津佐和代，中新美保子，矢野香代，青谷恵利子，篠原ひとみ，倉田トシ子，川根博司：看護学教科書におけるたばこ問題関連事項の記述，川崎医療福祉学会誌16(1)：73-80，2006.
- 9) 伊藤千晴，太田勝正：教科書からみた戦後の看護理論教育内容の変遷，日本看護学教育学会誌17(1)：29-39，2007.
- 10) 沼口知恵子，前田和子：児童虐待に関する看護基礎教育一教科書内容の検討一，茨城県立医療大学紀要13：91-105，2008.
- 11) 大石朋子，末永真由美，水戸優子：基礎看護学領域で使用しているテキスト上の看護記録の現状，神奈川県立保健福祉大学誌6(1)：77-86，2009.
- 12) T. ヘザー・ハードマン編，中木高夫訳：NANDA-I看護診断一定義と分類2009-2011，第1版，東京：医学書院，pp. 352-353，2009.
- 13) 厚生労働省：平成22年版保健師助産師看護師国家試験出題基準について，2009/04/13，<http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/04/tp0413-1.html>，2010/08/11.
- 14) 小藪智子，白岩千恵子，竹田恵子，太湯好子：スピリチュアリティの認知の有無と言葉のイメージー緩和ケア病棟の看護師，一般病棟の看護師，一般の人，大学生の特徴一，川崎医療福祉学会誌19(1)：59-71，2009.
- 15) 小藪智子，白岩千恵子，竹田恵子，太湯好子：看護師のスピリチュアルケアのイメージと実践内容，川崎医療福祉学会誌19(2)：445-450，2010.
- 16) 大久保明子，岡村典子，酒井禎子，阿部正子：日本の看護職のスピリチュアリティに関する認識(1)「スピリチュアリティ」に対する知識とイメージに焦点を当てて，第25回日本看護科学学会学術集会講演集：166，2005.

